

所管部長等名	健康福祉部長 上田 淑哉
所管課・係名	国保ねんきん課 医療給付係
課長名	小林 真二

評価対象年度	平成23年度
--------	--------

(Plan) 事務事業の計画						
事務事業名	疾病予防費(医療費通知、脳ドック助成金)	「主なる事業の執行状況調」における件名又は事業名		疾病予防費		
会計区分	国民健康保険特別会計					
予算の事業名	疾病予防費					
事業コード(大-中-小)	55	—	01	—	37	—
施策の体系 (八代市総合計画の実施計画における位置づけ)	基本目標(章)	第1章 誰もがいきいきと暮らすまち				
	施策の大綱(節)【政策】	③ 健やかに暮らせるまちづくり				
	施策の展開(項)【施策】	① 保健・福祉・医療の連携強化				
	具体的な施策と内容	(4) 医療保険制度の適切な運営				
根拠法令、要綱等	国民健康保険法、国民健康保険における医療費の通知について(昭和55年保険発第51号厚生省通知)等					
実施手法 (該当欄を●)	○ 全部直営 ○ その他()		● 一部委託 ○ 全部委託		法令による実施義務 (該当欄を●) ● 義務ではない	
事業期間	開始年度	合併前		終了年度	未定	

(Do) 事務事業の実施										
事務事業の概要	目的	対象(誰・何を)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)							
	内容 (手段、手法等)	八代市国民健康保険被保険者 八代市国民健康保険医療費	医療費総額を通知することによる適正受診の推進及び医療機関等による診療報酬等の不正請求の防止を図り、医療費適正化に繋げる。 脳ドックの費用の一部を助成することにより脳ドック受診を促し、疾病の早期発見・早期治療に繋げ、医療費の抑制を図る。							
事業開始時点からこれまでの状況変化等	被保険者に対し、受診日数や医療費の額等を年4回通知する。 脳ドック費用として、ひとり年1回、一律15,000円を助成する。(被保険者は、実施医療機関が設定した脳ドック検査費用から15,000円を差し引いた額を自己負担分として支払う。)									
事業開始時点からこれまでの状況変化等										
コスト・成果指標の推移										
コスト	総事業費		単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込	
			千円	15,713	15,424	18,933	18,933	18,933	18,933	
	事業費(直接経費)		千円	13,263	12,974	16,483	16,483	16,483	16,483	
	財源内訳	国・県支出金		千円	3,808	1,698	7,169	7,169	7,169	7,169
		使用料・手数料		千円						
		市債		千円						
		その他()		千円						
		一般財源		千円	9,455	11,276	9,314	9,314	9,314	9,314
	概算人件費(正規職員)		千円	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	
正規職員		人	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35		
従事者数		人								
臨時職員等従事者数		人								
(もたらそうとする効果の数値化)	指標名	指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画	
	① 医療費通知の送付件数	通知を受け取った被保険者は、医療費適正化への意識付けができたと考えられるため指標として設定した。	件	69,081	69,434	69,200	69,200	69,200	69,200	
	② 脳ドックの受診者数	疾病の早期発見により、重症化前に受診でき、医療費抑制に繋がったと考えられるため指標として設定した。	人	481	456	720	720	720	720	
	〈記述欄〉※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価

事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結び つきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A （現状分析等） 高齢化や医療の高度化による医療費の増加に伴い、国保財政は 年々厳しさを増し、医療費適正化への取り組みの重要性はますます 高まっていることから、引き続き各保険者が主体となって取り組むべ き事業である。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化によ り、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当 ですか（国・県・民間と競合していませ んか）	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移し ていますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B （現状分析等） 脳ドックについて、ここ2年間は受診者数が減少し、募集定員の6割 に達していない状況にある。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見 直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入な どにより、成果を下げずにコストを削 減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A （現状分析等） 医療費通知の作成については、国保連合会に委託しており、また 両事業は共に業務の性質上、他事業との統合・連携は不可能であ る。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業と の統合・連携によりコストの削減は可 能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方 法により、人件費の削減は可能です か	A できない B 検討の余地あり C 可能である	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありま すか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃 止）	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 （該当欄を●）	<input type="radio"/> 不要（廃止） <input type="radio"/> 民間実施 <input type="radio"/> 市による（民間委託の拡大・市民等との協働等） <input checked="" type="radio"/> 市による実施（要改善） <input type="radio"/> 市による実施（現行どおり） <input type="radio"/> 市による実施（規模拡充）	（今後の方向性の理由） 脳ドックについては、受診者数の減少に歯止めをかけ、事業効果の向上を図る必要があるた め。																					
改革改善内容	今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果 脳ドックについて、募集要件のうち「前年度に八代市の特定健診を受診されている方」とい う要件を削除することにより、受診者数を増やし、さらなる事業効果の向上を図る。	改革改善による期待成果 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td align="center">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						

外部評価の実施	無	実施年度
---------	---	------

決算審査特別 委員会における 意見等	（委員からの意見等） 【平成20年度決算委】脳ドックについては、不用額を減らすよう努め、今後とも推進してほしい。
--------------------------	---